

令和2年度教育者表彰（文部科学大臣表彰）被表彰者の功績概要

かとう ゆきひろ
加藤 幸弘

（59歳） 三重県立四日市南高等学校長

- ・公立高等学校教諭として地理歴史科・公民科教育の推進に尽力した。
- ・三重県教育委員会事務局副室長、教育改革推進監を務め、本県の教育活動の充実のみならず、本県教育行政の発展に尽力した。
- ・公立高等学校長として、名張西高等学校では、教育課程の編成・学校施設の整備等の準備を周到に行い、名張桔梗丘高等学校との合併を円滑に進めた。合併後の名張青峰高等学校では、普通科・文理探究コースを設置し、地域から選ばれ続ける学校となるよう積極的な情報発信等を行い、名張西高等学校時代から続く地元の進学校としてのブランド力の強化を推進した。四日市南高等学校では、外部連携による「探究的・体験的活動」と「総合的な探究の時間」のつながりを意識したキャリア教育や、ICT機器を導入し、新学習指導要領、新大学入試制度に対応した「主体的で、対話的な深い学び」を目指した授業改善を行うなど、生徒の進路希望の実現に向けた学習指導に積極的に取り組んだ。
- ・三重県立学校長会長、副会長、会計として同会の運営に尽力した。

令和2年度教育者表彰（文部科学大臣表彰）被表彰者の功績概要

なかせ てつお
中瀬 鉄夫

（60歳） 松阪市立宮前小学校長

- ・公立中学校教諭として、国語の指導方法の研究と実践に取り組むとともに、それぞれの赴任校で職員の中心的存在となり校内研修の推進に努めた。また、生徒指導においても、生徒や保護者との関係づくりを大切にし、情熱をもって実践を重ねた。誠実な人柄による指導は、生徒や保護者、同僚から大きな信頼を得た。
- ・三重県教育委員会充指導主事として、教員の教育技術向上を図り、学校における研修会の企画立案、授業の工夫改善等の指導助言を行うなど、教員の資質向上に取り組んだ。また、学校全体に関連する諸課題に関しても助言を求められるなど、多くの教育関係者から厚い信頼を得た。
- ・松阪市教育委員会子ども支援研究センター研修主事及び研修総合担当主幹として、市内の小中学校に対し、指導方法や指導内容について、卓越した指導力を発揮した。また、教職員研修等、教育行政に広く携わり、教職員の資質向上及び学校教育活動に対する指導、助言にあたり、市内の教育振興に顕著な成果を上げた。
- ・三重大学教育学部附属特別支援学校副校長として、積極的に研修会を実施するなど、常に教職員の先頭に立って、先進的な教育実践等を踏まえた研究に邁進した。その先見性に富んだ取組は教職員、児童生徒はもちろん保護者からも厚い信頼を得た。
- ・公立小学校長として、平成29年4月から三重県松阪市立柿野小学校長、平成31年4月から三重県松阪市立宮前小学校長に赴任し、地域や保護者との対話を重視した学校づくりに力を注いだ。小規模校での仲間づくりを軸とした学習を進めるために、保護者、地域、近隣小中学校との連携を深め、健全な児童の育成と学力向上をめざした取組を進めている。また、県小中学校長会長兼県小学部会長として県内の教育課題の解決に向けて尽すいしている。

令和2年度教育者表彰（文部科学大臣表彰）被表彰者の功績概要

こばやし ひろあき
小林 弘明

（60歳） 多気郡多気町松阪市学校組合立

多気中学校長

- ・公立中学校教諭として、三重県鳥羽市立鳥羽東中学校に新規採用として赴任し、学級経営、教科指導、部活動指導に精力的に取り組んだ。三重県多気郡明和町立明和中学校において、特別支援学級の担任をはじめ、生徒一人ひとりの思いを大切に、熱い情熱を持って、教育活動に取り組み、生徒や保護者から厚い信頼を得た。三重県多気郡大台町立三瀬谷中学校、三重県多気郡大台町立大台中学校においては、人権担当や進路指導担当として生徒一人ひとりの学力保障や進路保障をめざして、学校のみならず地域の中心的存在として取組をすすめた。三重県多気郡多気町立勢和中学校では、研修主任として、2期制の導入に向け教育課題を整理するとともに、絶対評価への移行等に関わり、評価方法の円滑な移行に資する研修会を行うなどリーダーシップを発揮しながら職責を遂行した。
- ・公立中学校教頭として勤務した三重県多気郡大台町立大台中学校では、大台町小中連携養育推進協議会の発足に深く関わった。三重県多気郡多気町立勢和中学校においては、事務局としてコミュニティスクール研究指定の発足に関わり、保護者、地域との連携をより密にしながら、学校教育の充実と地域の活性化に向けて尽力した。
- ・公立中学校長として勤務した三重県多気郡大台町立宮川中学校においては、学力向上推進に向けた取組をすすめた。特に、基礎学力定着に向けて、家庭と連携しながら、家庭学習の充実に取り組み、確実に成果を上げることができた。三重県多気郡多気町松阪市学校組合立多気中学校においては、「多気町指定研究発表会」を開催し、これまで培ってきた実践を多気地域から広く発信している。また、今年度は県小中学校長会副会長及び中学校部会長として、課題解決に向けて取り組んでいる。

令和2年度教育者表彰（文部科学大臣表彰）被表彰者の功績概要

てらもと ゆたか
寺本 豊

（62歳） 津田学園中学校長

- ・昭和55年4月、学校法人津田学園に奉職以降、建学の精神を具現すべく、望ましい校風の確立と幅広い教育活動の推進に中心的な役割を担った。
- ・平成元年以来、子どもの人格形成に重要な時期である中学校、小学校の校長を歴任し、建学の精神を具現化するため、教育理念「自由・自主・自律」にのっとった良い校風を樹立し、教育成果をあげた。
- ・昭和60年に副学園長に就任し、学校全体の教育成果を著しく向上させ、学校全体の対外的な評価を大いに高めた。
- ・平成18年に副理事長に就任し、「教育ICT」や「英語教育」など時代に合わせた新たな教育の取り組みについても推進すると同時に、学園創立以来、教育の基本としている「道徳教育」の充実に尽力している。
- ・学園外においても、平成元年から県私学協会理事を務めるなど、私学全体の振興を視野に入れ、私学教育の充実と発展、後進の指導・育成に、長きにわたり積極的に寄与している。